（一）一般情勢報告

經過報告

一、三・一五事件による左翼戰線の未曾有の打撃の中に勞働農民黨は昭和三年四月十日解散せられたが、我等は直ちに新黨組織準備會を組織して日常闘爭の展開と再結黨の爲めに組織を立て直して進んだ。而してそれは當時の力としては非常な成功を收めたと言ひ得る。十月二十四、五日の全國代表者會議を經て十二月二十二、三、四日の勞働者農民黨の創立大會に及んだが、その大會は最終日に於て解散せられ、新黨組織準備會そのものも解散せられた。

二、われ等の全陣營は、直ちに政治的自由獲得勞農同盟に轉形して行つた。然しながらその組織は發展的に解消すべきものとして規定され、政黨的形態を可及的に速に清算すべきものとせられた。即ちそれは系統立つた全國的組織及び決議・指導の機關を持たず、それ自身の自主的活動は不可能の狀態に置かれてゐた。

三、かゝる變則的な、不便な組織を持ちながらも我々は各地の選擧戰その他の日常闘爭の展開に努力してゐたが、四・一六事件は再びわが陣營から多くの闘士を奪ひ去り、我等の闘爭は著しき不活潑狀態に陥らざるを得ず、このまゝにして經過せんか、わが左翼陣營は立ち腐れの悲運を見ざるを得ない有樣であつた。

四、かゝる時に、八月八日、大山郁夫、上村進、細迫象光三氏によつて「新勞農黨樹立の提案」がわれ〳〵の前に投げ出された。われ〳〵は直ちに贊成の意を固めて靜に全國の同志の批判の結論を見てゐたが、提案支持の聲、全國的に壓倒的にして、正にかの提案の實現の階級的意義は全國の同志によつて壓倒的に承認せられたることを認め、九月六日東京地方の同志會合を持ち、「新勞農黨準備會本部準備委員會」を確立し、全國の同志にその承認を求めたのである。

五、その後の本部委員會の活動は別項報告の如くである。

全國的狀勢報告

一、全國的情勢を一般的に見るならば、新勞農黨樹立の聲は壓倒的で、反對論は問題になり得ない。全國的に最も統制ある反對振を示してゐるのは、ナップ（日本藝術團體協議會）及び學生聯盟である。で、全縣一致贊成の狀態の所でも、これ等の組織のある所では二三のインテリゲンチヤ分子の反對が介在してゐる。

二、反對論のうち質的に最も强力なのは勞働組合全國協議會